

2024 年度 Future Design プログラムの最終報告会記録 Record of Future Design Program Final Report Meeting in 2024

関西大学教育開発支援センター
Kansai University, Center for Teaching & Learning

キーワード SD、人材育成、FD / SD, Human Resource Development, FD

1. はじめに

Future Design プログラムは、学生、教員、職員が連携してこれから取り組むべき課題を発見し、社会の変革に対応し、時代に即した教育を展開できる能力を育成することを目的とする三者協働の研修プログラムである。これまで、大学設置基準改正に伴う SD の義務化に伴い、2017 年度から FD/SD 研修プログラムという名称で、毎年度学内研修として実施していた。今年度から、これまでの内容に加え、さらに創造力を活かし、将来的に関西大学をより発展させる提案ができるようなプログラムにしたいという想いのもと、「Future」と「Design」を組み合わせ名称を改めた。

企画・運営は教育開発支援センター「FD/SD 連携プロジェクト」が担った。今年度のテーマは、「関西大学の新たな魅力を提案しよう - 関大リブランディング戦略 -」と策定し、関西大学の現状を明確にし、強みや弱みを把握したうえで、具体的に関西大学の魅力を高める施策を提案する内容とした。

本プログラムは、2024 年 11 月 12 日から 12 月 3 日まで、毎週火曜 1 限（9：00～10：30）、全 4 回で構成され、第 3 回目終了後に各グループによる最終報告会の機会を設けた。第 1 回では大学の総合企画室長が講師を務め、関西大学のブランディング戦略（過去・現在・将来）と広報活動に関する内容を講演された。また、第 2 回では教育推進部の教授が講師を務め、教学 IR プロジェクトが集計している学生調査の結果をもとに、関大生の現状を講演された。（図 1）



図 1 広報用チラシ

プログラムは三者（学生・教員・職員）協働による混合グループを編成して実施した。対象者について、学生に関しては、関西大学の学習・学生生活支援・大学教育等に関心を持つ学生を募った。教員に関しては、専任教員か非常勤講師かは問わずに周知をした。職員に関しては、人材開発課と協力し、職員研修の一環として、募集を行った。その結果、学生が 8 名（33.3%）、教員が 4 名（16.7%）、職員が 12 名（50.0%）の計 24 名が参加し、そのうち 23 名はグループワークにも参加した。1 グループ 4 名または 5 名とし、計 5 グループに分かれた。各グループには、できる限り「学生」「教員」「職員」がバラバラで分かれるように、グループ分けを行った。

本稿では、2024 年 12 月 3 日に開催した最終報告会（図 2）において、各グループが報告した内容を記録として残す。



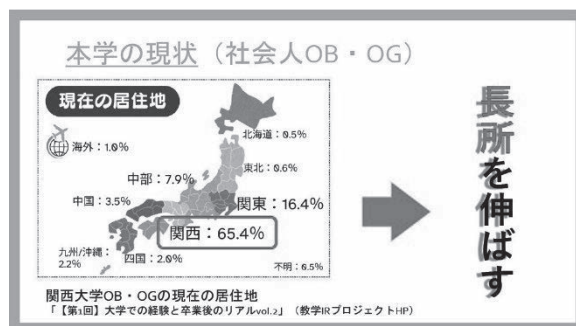
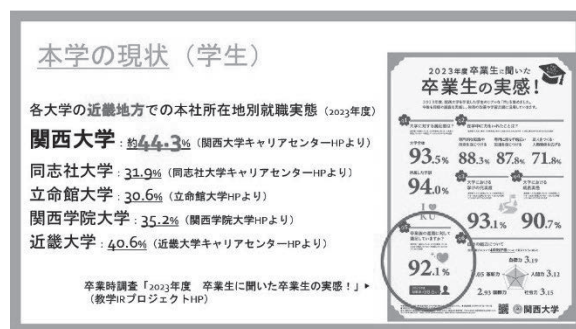
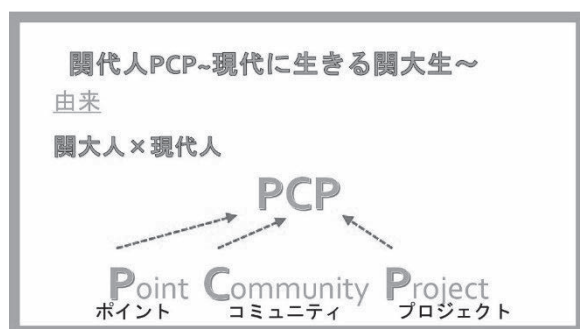
図2 最終報告会広報用チラシ

2. 各グループの発表内容

全5グループの発表内容（スライド）は次のとおりである。

2.1. A グループ「関代人 Point Community Project～現代に生きる関大生～」

丹 悠真 (文学部生)、迫口 文哉 (広報課)、
堀越 香音 (学長課)、森谷 文香 (キャリアセン
ター事務 G)



プロジェクト実行における目標

- ① 関大が主催する企業イベントをもっと知ってもらう！
- ② 個性や強み、大学で学んだこと、興味を活かすことができる企業を主体的にみつけることができるようにする！
- ③ 関大だけではなく関大前通りや地域全体をもっと盛り上げる！
- ④ 関大の発信するSNSやインフォメーションシステム利用向上へ！

プロジェクト実行における理想

以下のことを周知できるようにする (or売り出す) !

- ①プロジェクト参加を通じて、将来の夢について楽しみながら実現することが可能である大学であること
- ②関関同立では唯一大阪に全キャンパスを構え、商店街（関大前通り）を持つ関大だからこそ、それを活かして地域とコミュニティを形成できるただ一つの大学であること

⇒ 関大志願者の増加×学生の意欲向上×企業との連携促進×地域活性化

サービス内容

関大×学生×企業×地域 活性化の好循環型サービス

- ①企業との連携を深めた講座・イベントプログラムの企画
(ex)

②企業と連携を深めた講座・イベントプログラムの告知・実施
(インフォメーションシステム/SNS等で)

(ex)

③イベントに参加した学生たちはポイントやクーポンをGet
(ex)

④ポイント/クーポンを関大内の食堂や関大前通りのお店で利用
(ex)

関大のコロナワクチン接種時に配布されたクーポン券利用のようなものを想定。

期待される効果

関西大学の学生に来てほしいと思う企業が多い
→企業アピールできる場を提供できる

関大内のお店や周辺地域にとっても活性化のメリット
→地域と繋がり深さをアピールでき、関大の強みに繋がる


インフォメーションシステムやSNSを見る人が増加
→多くの学生に知ってもらえるようにする。

講座・イベントプログラムに参加する入口、仕掛け作り
→現在の時代の流れに則しており、学生の興味を惹き付ける

関大の学び全国普及大作戦！

関大リブランディング戦略
Bグループ
(らっきー、じゅんな、このみん、みつこ、きーちゃん)

今後の展望

- 関大×学生×企業×地域 活性化の好循環型サービス

- 強みの強化と弱みの補填
→さらなる関大の魅力UP
- 効果検証
→イメージ調査、アクセス数、学生の声、企業アンケート

関大の抱える課題

入学時調査 回答率高いTOP3

- 「入学時調査」における関大選択の理由 Top3に「学び」に関連した項目がない
- 授業をしに大学へ行くという感覚、学びが薄い
- 学生と先生の関わりが少ない
- 「この先生の授業を受けたい」と思って履修する学生が少ない
- 関西圏の志願者ばかりで、地方からの志願者・入学者が少ない

項目	関大	他大
学びの楽しさ	35%	45%
学びの深さ	30%	40%
学びの幅	25%	35%

学年	関大	他大
1年生	15%	25%
2年生	10%	20%
3年生	8%	18%

今後の展望

サービス実施にかかる課題

- 企業選定や実施に至るまでの調整
- ポイントやクーポンのデジタルサービス化
- 割引額の補填方法

関大に「学び」イメージを

関大を全国へ

SNSの活性化

ご静聴ありがとうございました。

メインターゲット

受験生・高校生に刺さるPR展開


なぜ受験生・高校生をターゲットにするのか
⇒ 少子化の中、受験生を維持するため

↓

関西圏外の学生数を増やすため

↓

関西大学の「学び」を志望理由にする



2.2. Bグループ「関大の学び全国普及大作戦！」

高橋 弥葵（文学部生）、橋本 木実（政策創造学部生）、木原 宏子（教育推進部 教学IRアドバイザー）、荒木 康裕（学生生活支援 G）、上平 純菜（高槻ミュージックキャンパス事務 G）


関大先生チャンネルとは

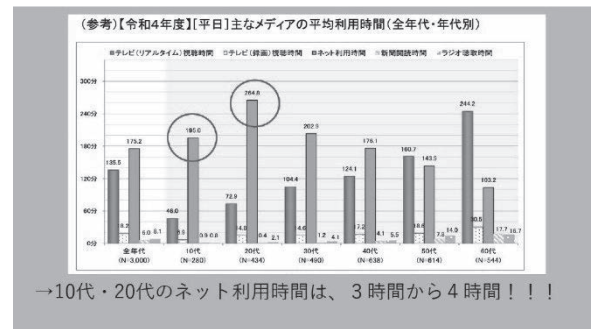
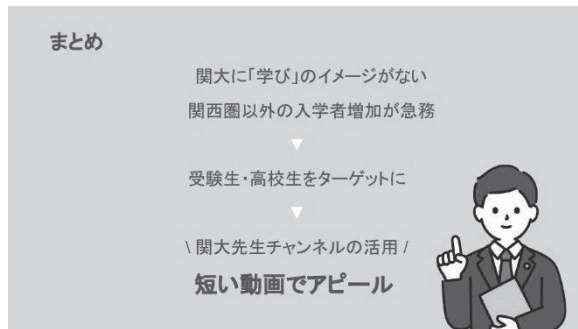
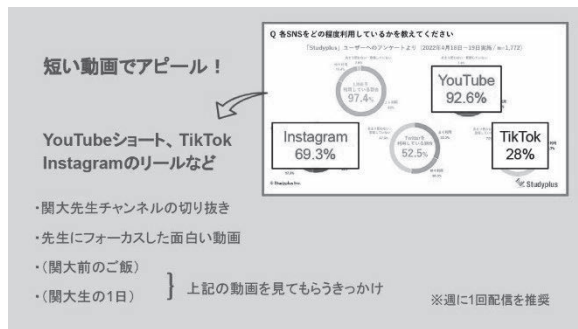
サイトの紹介（[関大先生チャンネル](#)）

- 関大の先生が自身の講義や研究を紹介する動画を配信するサイト
- ビジネスデータサイエンス学部を含む全14学部が配信
- Youtube にて限定公開されたものが表示される形式

問題点

- 動画の閲覧数が少ない！
- 限定公開のためYoutubeでのオススメに表示されない！
- サイトの存在を知っている人が少なく 動画にたどり着くことができない！！





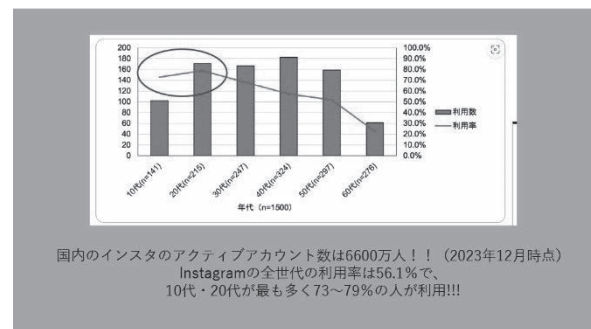
参考文献一覧

関西大学(2024a)「2024年度「入学時調査」速報値資料集 全学版」pp.5-7.

関西大学(2024b)「2024年度入学結果・データ集」『保存版2025年度入試ガイド』p.54

関西大学(n.d.)「関大先生チャンネル」(<https://www.sensei-ch.rd.kansai-u.ac.jp/>, 2024.11.26閲覧)

DIME(n.d.)「中高生が最も利用しているSNS、3位Instagram、2位YouTube、1位は？」(<https://dime.jp/genre/1398474/>, 2024.11.26閲覧)



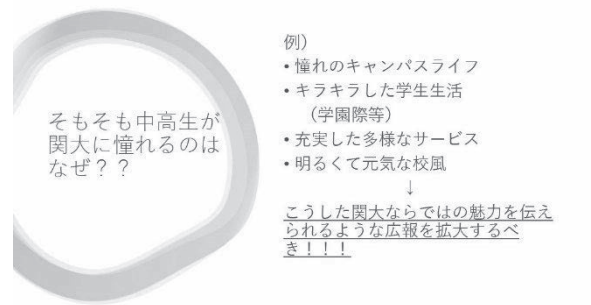
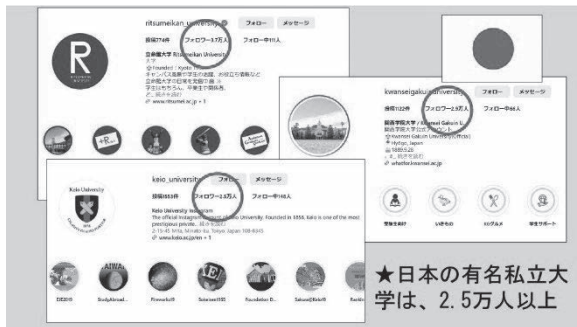
2.3. Cグループ「関西大学のSNS戦略」

森本 実友羽(経済学部生)、王 港(外国語教育学研究科生)、柿本 穂佳(情報推進 G)、熊谷 亜咲(教務事務 G)、橋本 美玲(奨学支援 G)

対象者：主に10代！！

・Instagramによる
リブランディングに開拓の
余地がある!!!

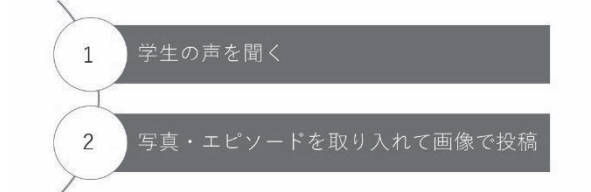




投稿内容 (例)



投稿手順

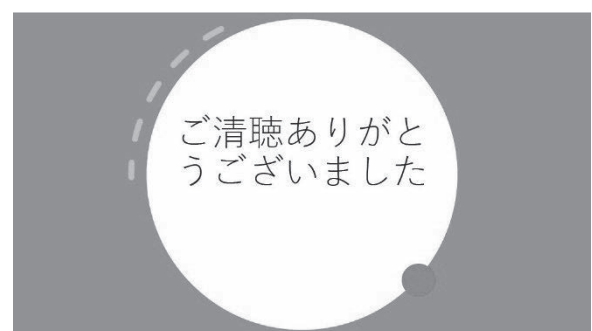
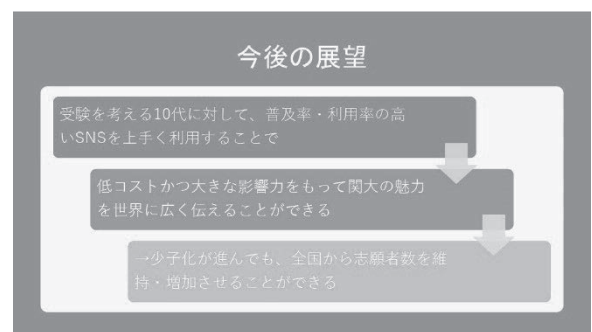
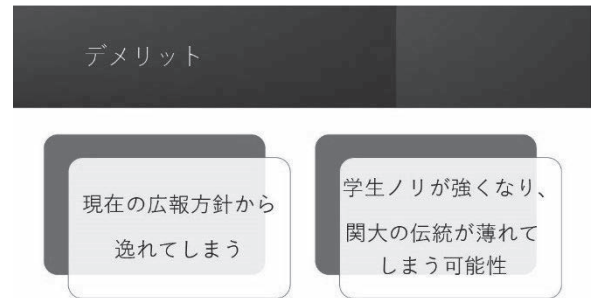


現状を改善するためには？



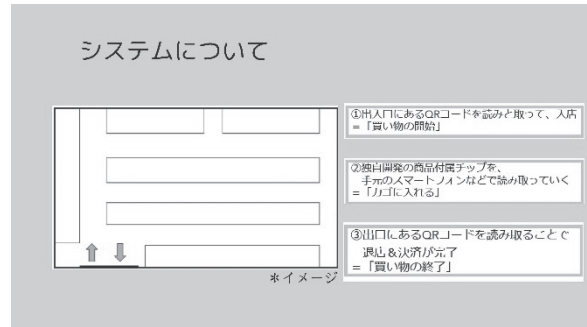
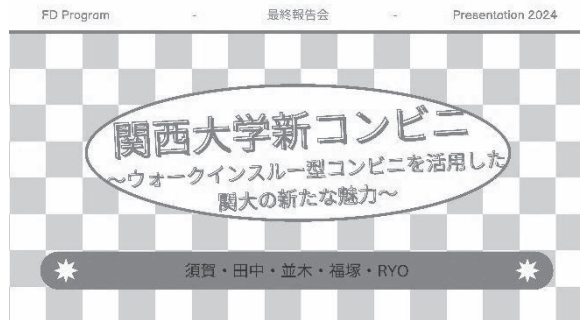
空きコマの過ごし方に関するアンケート





2.4. Dグループ「関西大学新コンビニ ～ウォークインスルー型コンビニを活用した関大の新たな魅力～」

並木 愛実（社会安全学部生）、福塚 勇汰（文学部生）、梁 辰（教育推進部 非常勤講師）、須賀 菜月（情報基盤 G）、田中 大翔（総務課）



メリット・デメリット

メリット	デメリット
距離解消	初期費用（開発費、諸々）
時間短縮	セキュリティ対策
運営効率の向上	キャッシュレスへの抵抗
柔軟な営業時間	
技術力のアピール	
学生の実習の場（技術開発の場）	
地域貢献・産学連携	

目次

- 現状の課題：学生目線の関大の問題
- 解決策：コンビニを「創る」
- システムについて
- メリット・デメリット
- 実例
- 今後の展望：学内における技術開発

実例

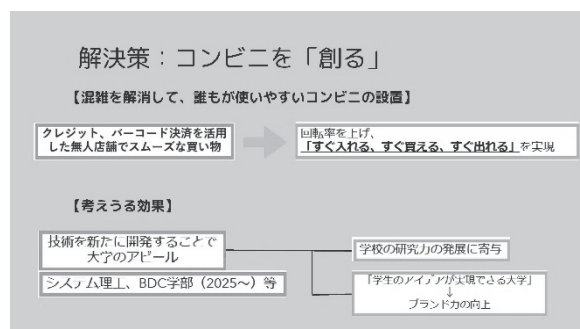
	セブンイレブン	ファミリーマート	ローソン
コンビニ名		ファミマ!!サタデアタワー/5店	Lawson Go MS GARDEN/1店
開発企業		株式会社TOUCH TO GO	NTTデータ・Cloudpick
システム	チップ	重量センサー 天井カメラ	重量センサー 天井カメラ
形式	ウォークスルー型	セルフレジ型	ウォークスルー型
実例の写真			

現状の課題：学生目線の関大の問題

構内コンビニの混雑がひどい
購入に10分以上かかることも

Ex) 教室 コンビニ 食べる場所の移動

昼休みの半分ほどを使うことも



今後の展望：学内における技術開発

- 1 学生からの意見収集・現状を知る
→無人レジが必要か、スマートフォン完結型で良いかなど。
- 2 敷地・スペースの確保
→既存の施設に影響を与えず、かつ利用率の高い場所を。
- 3 設置にあたって、より本学にメリットのある提携先の選定
→学校側が支払うことで発生する支出や提携にあたる契約料など。



2.5. E グループ「関大生の新たな挑戦と成長の物語〜ギャップイヤー〜」

中林 愛理（社会学部生）、沈 政郁（商学部教授）、石田 保葉（入試・高大接続 G）、田代 伶奈（授業支援 G）

関大リブランディング戦略

Eグループ

大学を取り巻く現状

新しい時代

100年時代

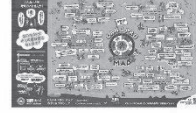
就職後3年以内離職率の推移: 厚生労働省

2023卒業時調査

スロー卒業（急がば回れ）



自分の力を伸ばす！ 関大のプログラム



関大生の新たな
挑戦と成長の物語
ギャップイヤー

学生が感じる既存の休学制度への不安

- ①利用するハードルの高さ
- ②休学自体にネガティブなイメージ

ギャップイヤー制度の概要

ギャップイヤー制度

を提案します！



ギャップイヤー制度とは？

ギャップイヤー制度は、学生が学業を一時的に中断して、自由な目的で時間を活用するための仕組みです。
特に、1年次修了後と2年次開始までの間に1年間の休学期間を設ける形が一般的となっています。
この期間中、学生は留学、ボランティア活動、インターンシップなどを通じて自己成長や視野の拡大を図ることができます。

ギャップイヤー制度の特色

自己成長のための時間確保

- 新しいスキルの習得（留学、ITスキルなど）
- 自己探求の時間（自分の強みや弱みを把握する）

キャリア探索のための実体験

- インターンシップ、実務の経験を通して、自分の志しを具体化し、職業観を確立する。
- 社会人としての経験、異文化での生活経験が就職活動や社会適応力を養う。

社会貢献意識の育成

- 多様な経験、異なる価値観の文化を体験し、多角的な視点を持つ。
- 社会貢献活動の経験が、自分が社会に貢献できることを実感し、積極的な貢献を目指す。

ギャップイヤー制度活用の流れ

オリエンテーション

ギャップイヤー制度の概要、活用方法、留意点などを説明します。

目標設定

ギャップイヤー期間中に達成したい目標を設定します。

各プログラムへ参加

ギャップイヤー期間中に参加するプログラムを選択します。

報告書の作成

ギャップイヤー期間中の活動内容、学び、成長などを報告書にまとめます。

卒業後復帰

ギャップイヤー期間終了後、卒業後復帰するための準備を行います。

05 リスクと課題	
1	金銭的負担
2	保護者の不安
3	目的がないと時間が無駄に

9

06 課題への対策	金銭的負担
	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金制度の充実: 学生に奨学金での資金支給を確約。 ・研修プログラムの提供: 活動期間を短縮し、費用を減らされる施設改修を推進。
	保護者の不安
	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修会の実施: 忙しい保護者ら参加しやすい環境で安心を確保。 ・連携共有システム: 活動報告書を通じて保護者が簡単に状況でさる仕組みを構築。
	目的がないと時間が無駄になる
	<ul style="list-style-type: none"> ・既存プログラムの活用: 大学や連携機関が提供する既存のプログラム（留学、ボランティア、インターンなど）を積極的に紹介。 ・成果の見える化: ポートフォリオや活動報告書を減じて成果を明確化し、得た学びの価値を表現させる。

10

参考文献

- 関西大学教育開発支援センター（2024）「2023年度 三者協働（学生・教員・職員）によるFD/SD 研修プログラムの最終報告会記録」『関西大学高等教育研究』15, 135-143.
- 関西大学教育開発支援センター（2023）「2022年度 三者協働（学生・教員・職員）によるFD/SD 研修プログラムの最終報告会記録」『関西大学高等教育研究』14, 111-123.